

電設資材の総合商社として創業100周年 部品調達から加工事業へ 太陽光ほか電線端末加工技術を磨く

丸吉電機

丸吉電機(港区芝浦、吉田康一社長、03・3453・5331)は、電設資材の総合商社として大正5年に創業、今年4月1日に100周年を迎える。東京支店(港区)・東北支店(仙台市若林区)・山梨支店(中巨摩郡昭和町)・中部支店(山梨県中央市)の4カ所に営業拠点を置く。

昭和49年頃より商社としての成長を活かした部品調達で、電線端末加工(ワイヤーハーネス)および電装品の組立を開始、昭和58年には加工事業主体の山梨営業所(現山梨支店)を開設した。キャブタイヤケーブルの端末加工を中心に、さまざまな電線の端末加工や電装品の組立加工を行い、個人企業からグローバル企業まで取引を拡大し、加工業歴42年の実績がある。

近年、電線業界におけるメガソーラー関連の需要増に着目し、

平成26年山梨県甲斐市に開設した富竹事業所で、主に太陽光発電システム用ケーブルのコネクタ取付加工を実施した。施工場所を表示した梱包箱で納品したり、太陽光



太陽光発電システム用ケーブル

パネルとコネクタ付ケーブルの誤接続を防止するため、コネクタ部分に「+」や「-」などの表示をマークチューブで施したりと、常に建設現場での効率UPを考えたサービスで、顧客からも高い評価を得ている。

昨年12月に手狭となった富竹事業所を発展的に閉鎖し、今年1月山梨県中央市に新工場を開設した。山梨県を拠点に長野県、静岡県へと販路を広げ、名古屋地区も視野に入れた「中部支店」という名称にした。従来の太陽光以外にも、各種コネクタ取付加工などの電線端末加工を行い、電気関連のさまざまな業界へPRしていく。また、将来的には自社設計を手がける体制を構築し、顧客の多様なニーズに応えるだけでなく、同社から提案できる環境も整え、さらなるサービス向上を図る。



今年1月に開設された中部支店



吉田康一社長